

指導と評価の年間指導計画

教科	地歴	科目	日本史B	週時間数	3	第3学年
目標 【学習指導要領】		我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
具体的な取組み 【指導上の留意点】		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史の大きな枠組みと流れを、世界の歴史、特にアジアの歴史と関連付けながら、幅広い視点から捉えさせる。 ・日本の歴史への興味・関心を引き出せるように、図表を幅広く利用し、具体的なイメージをもたせる。 ・具体的な問題を具体的に考える為に体験の手法を用いる。 ・考査では知識理解だけではなく思考力、論理力、表現力を問う問題を実施する。 				
月	予時	単元名	使用教科書項目	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント		評価方法
4月	13	第8章 幕藩体制の動揺	日本史Bの授業について	・オリエンテーションと第2学年での学習内容の概観		
			1 幕政の改革	・経済の発展と社会の変容に着目して、享保の改革や田沼時代の政策について理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・小テスト
			2 宝暦・天明期の文化	・幕藩体制の動揺や社会の変容が、洋学や国学の発達、教育や文学、芸能に与えた影響について考察する。		
			3 幕府の衰退と近代への道	・欧米諸国のアジアへの進出や近代化の基盤の形成に留意して、寛政の改革や天保の改革の諸政策について考察する。		
4 化政文化	・幕府が衰退する中、学問・思想の新たな展開と町人文化が最盛期を迎えたことについて理解する。					
5月	13	第9章 近代国家の成立	1 開国と幕末の動乱	・開国から新政府の成立に至る過程を、各政治主体の動向に注目しながら理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・小テスト
		2 明治維新と富国強兵	・欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化と関連付けながら、政府による中央集権的な近代化政策について考察する。			
6月	12	1	<定期考査>			
			3 立憲国家の成立と日清戦争	・自由民権運動を経て立憲体制が成立したことが、不平等条約の改正と日清戦争に与えた影響について考察させる。		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・小テスト
		4 日露戦争と国際関係	・日露戦争の勝利を踏まえて、我が国の対外関係の変化と立憲国家の在り方について考察する。			
7・8月	15		5 近代産業の発展	・我が国の産業革命の進展と寄生地主制の成立や社会問題の発生を関連付けて考察する。		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・課題テスト ・小テスト
		6 近代文化の発達	・急激な近代化の進行に対する批判的な視点に着目しながら、明治期の文化について理解する。			
9月	13	第10章 二つの世界大戦とアジア	1 第一次世界大戦と日本	・国際社会における日本の立場に着目して、第一次世界大戦が政治、経済、社会に及ぼした影響について考察する。		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・小テスト
			2 ワシントン体制	・国際的な協調主義が広がりや民族主義の高揚、ロシア革命などが、日本のデモクラシーに与えた影響について理解する。		
		3 市民文化	・都市の発達と大衆文化の成立を、デモクラシーの風潮と関連付けて考察する。			
	1		<定期考査>			
10月	13		4 恐慌の時代	・昭和初期の政党政治の展開と経済や社会の状況を、国際情勢の変化や後の軍部の台頭に着目しながら考察する。		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・小テスト
		5 軍部の台頭	・満州事変以降、国際的に孤立を深めたことに留意しながら、五・一五事件や二・二六事件の影響を理解する。			
11月	6	第11章 占領下の日本	6 第二次世界大戦	・無謀な戦争に突き進んでいった原因を、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察する。		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・小テスト
			1 占領と改革	・大戦後の国際情勢や国民の意識に着目して、占領下で行われた諸改革について考察する。		
	8	2 冷戦の開始と講和	・「冷戦」の進行に留意しながら、占領政策の転換や講和と独立について理解する。			
	1		<定期考査>			
12月	9	第12章 高度成長の時代	1 55年体制	・様々な社会運動の高揚に着目して、55年体制の成立と展開について理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・小テスト
			2 経済復興から高度成長へ	・高度成長のひずみに留意しながら、日本が復興を経て高度成長を達成できた諸条件について考察する。		
1・2月	8	第13章 激動する世界と日本	1 経済大国への道	・外交政策の推移に留意しながら、石油危機を乗り切った日本がバブル経済に至った過程について理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・小テスト
			2 冷戦終結と日本社会の動揺	・冷戦の終結と55年体制の崩壊以後の状況を踏まえて、これからの日本の行く末について考察する。		
	4	歴史の論述	・日本史学習のまとめとして、生徒自ら主題を設定し、資料を活用して探究し、考えを論述する。		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・レポート 	
合計時間数			117時間			

単元指導計画

単元の名前	恐慌の時代
-------	-------

1 基軸となる問い：なぜ日本は「民主シーの時代」から「戦争の時代」へと向かっていったのか。

2 単元の目標

昭和初期の政党政治の展開と経済や社会の状況を、国際情勢の変化や後の軍部の台頭に着目しながら考察させる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
○昭和初期の政党政治の展開と経済や社会の状況の推移について課題意識を高め、意欲的に追究している。	○昭和初期の政党政治の展開と経済や社会の状況の推移から課題を見出し、国際情勢の変化や後の軍部の台頭と関連付けて多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。	○昭和初期の政党政治の展開と経済や社会の状況の推移に関する資料から情報を読み取り、その結果を適切に表現している。	○昭和初期の政党政治の展開と経済や社会の状況の推移についての基本的な事柄を、国際情勢の変化や後の軍部の台頭と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

4 指導と評価の計画

次程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
同時1(次一第)	<p>【問い】なぜ金融恐慌が起こったことで、財閥の経済的支配力が強くなったのか。</p> <p>【ねらい】グループワークを通じて、1920年代の日本経済の推移を踏まえながら、金融恐慌が起こった背景とその経済的影響についての確にまとめさせる。</p>			○		<p>○1920年代の日本経済についての既習事項を踏まえながら、提示された資料から金融恐慌に関する情報を読み取って、金融恐慌が起こった背景とその経済的影響について文章にまとめることができる。</p> <p><プリントの記述></p>
同時1(次二第)	<p>【問い】なぜ田中義一内閣は、中国に対しては強硬外交に転換したのか。</p> <p>【ねらい】中国における北伐の進展に対して、協調外交から対中国強硬外交への転換が行われたことを理解させるとともに、その結果が「満蒙問題」の解決を困難にしたことを理解させる。</p>			○		<p>○田中義一内閣の諸政策の中でも特に対中国強硬外交への転換について、その背景と影響を中国の民族運動の高まりと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p> <p><プリントの記述、観察></p>

第三回 1 時

<p>【問い】なぜ政党政治に対する国民の失望が広がっていったのか。 【ねらい】グループワークを通じて、昭和恐慌や中国の国権回収運動などの内外の情勢が、どのようにして政党政治に対する国民の失望と後の軍部の台頭につながるのかを、既習事項を踏まえ多角的に考察させる。</p>				
<p>・ 第一次、第二次で学習した内容も踏まえながら、昭和恐慌や中国の国権回収運動などの内外の情勢が、どのようにして政党政治に対する国民の失望と後の軍部の台頭につながるのかを意欲的に追究する。</p> <p>・ 浜口雄幸内閣が金解禁に踏み切ったことが結果的に昭和恐慌を招いたことや、復活した協調外交方針が中国の国権回収の民族運動に対する有効な対応を取れなかったことが、政党政治に対する国民の失望を買い、後の軍部の台頭を許すことにつながっていくことを、既習事項を踏まえながら考察する。</p>	○	○		<p>○ 「民主主義の時代」から「戦争の時代」へと日本が向かっていった理由に対する関心を高め、意欲的に追究している。</p> <p><観察></p> <p>○ ここまで学習してきた内容を踏まえながら、昭和恐慌や中国の国権回収運動などの内外の情勢から課題を見出し、政党政治に対する国民の失望と後の軍部の台頭に関連付けながら多角的に考察し、その結果を文章にまとめることができる。</p> <p><プリントの記述></p>

学 習 指 導 案

教科（科目）	地理歴史（日本史 B）	単元名	恐慌の時代（1 時間目 / 3 時間）
本時の主題	なぜ金融恐慌が起こったことで、財閥の経済的支配力が強くなったのか。		
本時の目標	グループワークを通じて、1920 年代の日本経済の推移を踏まえながら、金融恐慌が起こった背景とその経済的影響についての的確に文章にまとめる。		
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 1920 年代の日本経済についての既習事項を踏まえながら、提示された資料から金融恐慌に関する情報を読み取って、金融恐慌が起こった背景とその経済的影響について文章にまとめることができる。 <p style="text-align: right;">【資料活用の技能】</p>		
指導の内容・ねらい		学習活動	指導上の留意点・観点別評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の主題の提示 金融において信用が不可欠であることを確認させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> MQ (Main Question) なぜ金融恐慌が起こったことで、財閥の経済的支配力が強くなったのか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> SQ (Sub Question)① なぜ金融機関には「又貸し」が許されるのか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ペアワークにより、意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初に基軸となる問い（「なぜ日本は『デモクラシーの時代』から『戦争の時代』へと向かっていったのか。」）を提示する。
	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の振り返り 金融恐慌の説明 金融恐慌に関する論述 グループワークを通じて、よりの確にまとめさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> SQ② 大正時代に日本経済はどのように推移してきたか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ペアワークにより、既習事項を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> SQ③ 金融恐慌の経緯とは。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 金融恐慌の経緯について、説明を聞き、プリントに記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> SQ④ なぜ金融恐慌は起こったのか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> SQ④と MQ について、プリントの資料を読み取って論述する。 まず、個人で考え、下書き用紙に記入する。 次に、グループを作って意見を交流し、グループの解答を作成する。 各グループの代表者が、自分たちの解答を発表する。 最後に、発表の内容を踏まえて、個人で解答を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアワークにより簡単な確認をさせてから、既習事項の内容を含むプリントを配付する。 金融恐慌が起こった原因について論述させるため、因果関係についてはあまり触れないようにする。 <p>○ここまでの授業内容を踏まえながら、提示された資料から金融恐慌に関する情報を読み取って、金融恐慌が起こった背景とその経済的影響について文章にまとめることができる。</p> <p style="text-align: right;">【資料活用の技能】</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を振り返り、SQ⑤によって次回の「積極外交への転換」への予告を行う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> SQ⑤ なぜ枢密院は、台湾銀行救済のための緊急勅令案を否決したのか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 残り時間に応じて、金融恐慌の結果、金解禁を実施するための条件が整ったことを補足し、史料集所収の『伯爵伊東巳代治』を読ませる。

金融恐慌

■ なぜ金融恐慌がおこったことで、財閥の経済的支配力が強くなったのか。

(1) 第一次世界大戦後の日本経済

- **戦後恐慌**(1920)…欧米の商品流入→1919年から貿易は輸入超過、株価や綿糸・生糸の価格が暴落
〈原内閣の対策〉日銀による大規模な救済→経営状態のよくない企業・銀行が残存
- **震災恐慌**(1923)…関東大震災による打撃(被害総額約46億円)→決済不能となった手形(震災手形)が発生
〈山本②内閣の対策〉銀行が持つ震災手形に対する特別融資(約4億円)→決済が進まず

(2) 第1次 若槻礼次郎 内閣 (1926~27)

憲政会総裁



- 加藤内閣の全閣僚が留任(外相は**幣原喜重郎**)
- 大正から昭和へと改元(1926)
- **金融恐慌**(1927)

- ・震災手形を処理するための2法案、帝国議会に提出(1927. 3)
 - 法案の審議過程で蔵相 片岡直温 が失言
 - 取付け騒ぎ がおこり、東京渡辺銀行休業
 - 銀行の休業が続出
 - 震災手形2法案が成立、一時鎮静化
- ・ 鈴木商店 (第一次世界大戦時に急成長した総合商社)が経営破綻(1927. 4)
 - 鈴木商店に対する巨額の不良債権を抱えた 台湾銀行 が経営危機
 - 台湾銀行救済のための緊急勅令案が枢密院で否決
 - 内閣総辞職、台湾銀行休業、銀行の休業続出



(3) 田中義一 内閣 (1927~29)

立憲政友会総裁

- ・3週間の モラトリアム (支払猶予令) を緊急勅令で発令、日本銀行から巨額の非常貸出を実施(1927. 4)、台湾銀行などの救済法を公布(1927. 5)
 - 金融恐慌は鎮静化

〈切り取り線〉

■ 第一次世界大戦後の日本経済の動向を考慮しつつ、金融恐慌が起った原因について60字以内で説明せよ。

戦	後	恐	慌	・	震	災	恐	慌	に	よ	り	不	況	が	慢	性	化	す	る
中	、	震	災	手	形	の	決	済	が	進	ま	ず	、	不	良	債	権	を	抱
え	る	銀	行	へ	の	信	用	不	安	が	広	が	っ	て	い	た	た	め	。

■ なぜ金融恐慌がおこったことで、財閥の経済的支配力が強くなったのか、60字以内で説明せよ。

金	融	恐	慌	の	過	程	で	中	小	銀	行	の	整	理	・	合	併	が	進
み	、	預	金	は	五	大	銀	行	に	集	中	し	た	。	そ	の	結	果	、
財	閥	が	金	融	面	か	ら	産	業	支	配	を	進	め	た	か	ら	。	

● 第一次世界大戦後、日本ではたびたび恐慌が発生したが、そのことについて述べた文として誤っているものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[02・本]

- ① 第一次世界大戦による好況が続いたあと、貿易は輸入超過に転じ、戦後恐慌が起きた。
- ② 関東大震災後には、震災手形の処理が懸案となった。
- ③ 一部の銀行の不健全な経営が判明したため、取付け騒ぎが続出し、金融恐慌が起きた。
- ④ 若槻内閣は、緊急勅令により、台湾銀行の救済に成功した。

組 番 氏 名

授業の事後分析

この授業の核となるのは、金融恐慌についての説明や提示された資料の読み取りを踏まえて、グループワークによってSQ④とMQに対する答えをよりの確に論述させる所にあった。その成果は以下のとおりである。

- ・限られた時間の中で生徒たちが意見交流を行い、SQ④については全てのグループが自分たちの解答をまとめることができた。
- ・次に挙げるような生徒の解答例を見ると、授業のねらいを一定程度には達成できたと言える。

SQ④に対する生徒Aの解答例

<個人で行った下書き> 何度も続いた恐慌によって、人々の不安が高まり、そんな中でさらに不安にかられたため信頼がなくなってしまったため。(55字)
<グループの解答> 相次ぐ恐慌により人々の不安が高まっている中取り付け騒ぎが起きさらに不安が高まったため銀行の信用がなくなってしまったから。(60字)
<最終的な個人の解答> ※グループの解答と同じ

MQに対する生徒Bの解答例

<個人で行った下書き> ※下書きは書かれず
<グループの解答> 多くの銀行が休業する中信用の高い5大銀行への預金が増え、結果として経済力のある5大銀行が経済の中心となったから。(56字)
<最終的な個人の解答> 多くの銀行が休業していく中、信用を保った五大銀行が全体に対しての割合を伸ばし、金融を通じた産業支配力を持ったため。(57字)

また、課題としては以下のようなものが挙げられる。

- ・授業の核となる生徒の活動時間が短かった。前半はもっとテンポ良く進める必要があった。
- ・SQ④以降の生徒の活動に対する指示が的確でなかった。
- ・生徒が同じ問いに対して3回論述をするのは負担が大きかった。いったん箇条書きでまとめさせる、キーワードを書き出して論述の構想を練らせるなど、段階的にまとめていけるようにするとよかった。
- ・グループワークを経ても、次に挙げるような未熟な表現が残った。事後指導が大切である。

SQ④に対する生徒Cの解答例

<最終的な個人の解答> 二つの恐慌により日本国内のお金が失くなったので、国民も銀行からお金を引き出せなくなり、銀行の信用が落ちたから。(55字)

それ以外に、ペアワークにおいて教師の発問に対して生徒がさっと取り組む反応のよさが、授業研究会において取り上げられた。日頃からペアワークについては、ちょっとした意見を述べさせたり、既習事項を確認させたりする際に多用しており、それが反応の良さに表れたものである。ただし、二人という人数は、意見の深まりなどを求める際には十分とは言えず、生徒が主体的に活動する授業における効果には限界がある。そのように考え、今回の授業ではグループワークを主に据えた。グループワークについては普段の授業ではあまり取り入れておらず、そのため、生徒だけでなく教師の側にも不慣れな部分が表れた。しかし、それが「慣れ」の問題ならば、授業のねらいに応じて「日常的に」グループワークを取り入れていけばよいのだと感じた。

考 査 問 題

問 右のグラフを見て、以下の(1)・(2)の設問に答えよ。

(1) 右のグラフから読み取れることを述べた文として誤っているものを、次のア～カのうちから一つ選び、その誤りについて説明せよ。

ア 1885年から1913年にかけて、輸出額は減ったものの、生糸が輸出品の第1位を占めていた。

イ 1885年から1913年にかけて、綿糸の輸出額が増加し、輸出品の第2位を占めるようになった。

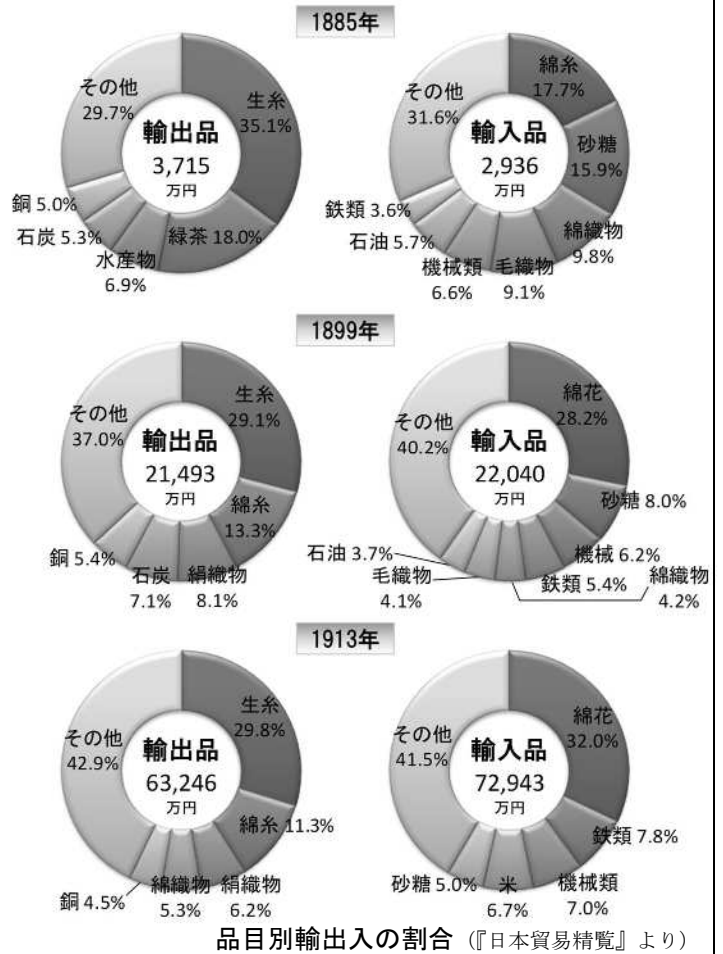
ウ 1885年から1913年にかけて、絹織物や綿織物の輸出額も増加した。

エ 1885年から1913年にかけて、綿花の輸入額が増加し、輸入品の第1位を占めるようになった。

オ 1885年から1913年にかけて、鉄類や機械類の輸入額も増加した。

カ 1885年から1913年にかけて、砂糖や米の輸入額も増加した。

(2) 日本の綿紡績業において産業革命が進展したことを説明するために使用するデータとして最も適当なものを、(1)のア～カのうちから三つ選べ。〔完答〕



答 (1) <記号> **ア** <説明> (例) 生糸の輸出の割合は減ったが、額としては増加している。

(2) **イ・エ・オ**

※進度の都合で研究授業とは別の部分の問題である

事 後 分 析

(1)について

- ・割合と絶対的な量とを混同する生徒が少なくないため、その違いが分かっているか確認するために出題した。
- ・記号選択の結果は【 正答 74.4% 誤答 18.6% 空欄 7% 】となった。
- ・記号選択の正答者のうち75%が、誤りについての説明もできていた。
生徒の解答例「全体の輸出額が増加しているため、割合は減っているが輸出額は増加している。」
「生糸の占める割合が減っているだけで、輸出額は減っていない。」
- ・記号選択の誤答者のうち87.5%が「カ」を選択し、「砂糖や米の輸入量は減少している」などの説明を行ってしまっていた。

(2)について

- ・「綿紡績業における産業革命の進展」を具体的に説明できれば解答できると考え、選択式での出題とした。
- ・結果は【 正答 15.7% 誤答 82.4% 空欄 2% 】となった。
- ・誤答者のうち50%が「イ・ウ・エ」、21.4%が「イ・ウ・オ」、11.9%が「ウ・エ・オ」と解答した。
→綿紡績業と綿織物業を区別していない生徒が非常に多いこと、また、産業革命と機械制生産との関連付けが弱いことが考えられる。